

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2020.4.6-12

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

11:15 それから、彼らはエルサレムに着いた。イエスは宮にはいり、宮の中で売り買いしている人々を追い出し始め、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒し、
11:16 また宮を通り抜けて器具を運ぶことをだれにもお許しにならなかった。
11:17 そして、彼らに教えて言われた。「『わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。』と書いてあるではありませんか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしたのです。」
11:18 祭司長、律法学者たちは聞いて、どのようにしてイエスを殺そうかと相談した。イエスを恐れたからであった。なぜなら、群衆がみなイエスの教えに驚嘆していたからである。
11:19 夕方になると、イエスとその弟子たちは、いつも都から外に出た。
11:20 朝早く、通りがかりに見ると、いちじくの木が根まで枯れていた。
11:21 ペテロは思い出して、イエスに言った。「先生、ご覧なさい。あなたののろわれたいちじくの木が枯れました。」
11:22 イエスは答えて言われた。「神を信じなさい。
11:23 まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、『動いて、海にはいれ。』と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになります。
11:24 だからあなたがたに言うのです。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。」

11:25 また立って祈っているとき、だれかに対して恨み事があつたら、赦してやりなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してくださいます。」

イエス様は律法を越える救い、すなわち十字架の贖いによる救いを成就するために地上にいられました。そしてその十字架に至る歩みの中で、十字架による神の国について教えられたのです。このマルコによる福音書もそのような教えに満ちています。イエス様の教えはただ概念の説明だけではなく、日常的なたとえ、奇跡、そして行動によるものでした。（この箇所は受難週の1日めにあたります。）

この宮をきよめる行動から、私たちは学ぶことができます。第一には、全世界の（異邦人も含む）救いということです。この商売は「異邦人の庭」という場所で行われており、ユダヤ人以外の人々の信仰の場だったのです。イエス様は「すべての民の」と、聖書を引用し全世界の救いを強調なさいました。このように十字架は全てのためです。

第二には、律法による権威主義の否定です。行いによる救いという律法主義は、当然行いによって人を差別します。またその立場によって優劣をつけます。特に祭司長、律法学者などは特別な人とされ立派な信仰を求められると同時に、自分たちの権威を守り一般の人々を見下していたのです。ですから彼らは権威を守るために、イエス様を殺そうとしたのです。（神様のみこころに権威があるのです。）

第三に、お金への執着です。律法主義、権威主義を維持するために、宗教指導者たちはお金の力を利用します。神殿での商売を許し、それで利益を上げて宗教活動を維持しようとしします。そのような宗教によって導かれるイスラエルの人々は当然、お金に執着します。中には「強盗」のように不正な利益さえ得ようとする者も出ます。

そのようなイスラエルの状況の中で、イエス様は弟子たちに本当の神の国（神の支配）を教えました。すなわち、いちじくはイスラエルを表しますが、以前いちじくに実がないのを見たイエス様は、「だれも…実を食べる

ことのないように」と命じられました。そのいちじくが結実しないうちにイスラエルの滅びが来ることを暗示なさったのです。そのいちじくが枯れたのを見て弟子たちは神であるイエス様の力に驚きますが、イエス様はそれをきっかけにして、弟子たちに信仰の力を教えられます。

イエス様がおっしゃるように、疑わないほどの信仰を持ってのように神様のみこころと一致して歩む者となりましょう。また「信仰がある」と自負する前に、人との交わりにおいても、わだかまりのない平和な関係を築きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 火曜

マルコ

12:1 それからイエスは、たとえを用いて彼らに話し始められた。「ある人がぶどう園を造って、垣を巡らし、酒ぶねを掘り、やぐらを建て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。

12:2 季節になると、ぶどう園の収穫の分けまえを受け取りに、しもべを農夫たちのところへ遣わした。

12:3 ところが、彼らは、そのしもべをつかまえて袋だたきにし、何も持たせないで送り帰した。

12:4 そこで、もう一度別のしもべを遣わしたが、彼らは、頭をなぐり、はずかしめた。

12:5 また別のしもべを遣わしたところが、彼らは、これも殺してしまった。続いて、多くのしもべをやったけれども、彼らは袋だたきにしたり、殺したりした。

12:6 その人には、なおもうひとりの者がいた。それは愛する息子であった。彼は、『私の息子なら、敬ってくれるだろう。』と言って、最後にその息子を遣わした。

12:7 すると、その農夫たちはこう話し合った。『あれはあと取りだ。さあ、あれを殺そうではないか。そうすれば、財産はこちらのものだ。』

12:8 そして、彼をつかまえて殺してしまい、ぶどう園の外に投げ捨てた。

12:9 ところで、ぶどう園の主人は、どうするでしょう。彼は戻って来て、農夫どもを打ち滅ぼし、ぶどう園をほかの人たちに与えてしまいます。

12:10 あなたがたは、次の聖書のことばを読んだことがないのですか。『家を建てる者た



ちの見捨てた石、それが礎の石になった。

12:11 これは主のなさったことだ。私たちの目には、不思議なことである。』」

12:12 彼らは、このたとえ話が、自分たちをさして語られたことに気づいたので、イエスを捕えようとしたが、やはり群衆を恐れ、それで、イエスを残して、立ち去った。

農夫たちのところへ「遣わ」された「しもべ」とは、預言者たちのことです。そして「息子」とはイエス様のごことで、イスラエルの人々が神に敵対してきた様子を表しています。ここではぶどう園を横取りしようとする強欲な人間の様子が描かれています。自分の所有欲については、誰もが警戒する必要があります。

またそれだけでなく、これがイエス様の教えであることを考える必要があります。神の国について、そして信仰と不信仰について教えているということです。

イスラエルの人々は主に従いませんでしたが、神の国を乗っ取ろうとまでは考えていなかったでしょう。しかし、結果的にそれほどまでの敵になってしまったのです。それは不信仰を悔い改めなかったことの結果です。

神に従わないで、それでも自分を保とうとするなら、神と戦わざるを得ないのです。預言者のように神のみこころを語る人にダメージを与え、語れないようにさせ、神のみわざを損なうようにさせてしまうということではないでしょうか。

光と闇には中間がないように、信仰と不信仰にも中間がないこと、またイエス様とともに集めない人は散らす人であるということを忘れないようにしましょう。主に従わないでいると、いつか主の敵になってしまうということも。ですから自分の不信仰な行いや生活に気づいていたなら、すぐに悔い改めて、主の憐れみによって変えていただきましょう。そして主のみこころへと喜んでチャレンジしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 8日 水曜

マルコ

14:32 ゲツセマネという所に来て、イエスは弟子たちに言われた。「わたしが祈る間、ここにすわっていなさい。」

14:33 そして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネをいっしょに連れて行かれた。イエスは深く恐れもだえ始められた。

14:34 そして彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、目をさましていなさい。」

14:35 それから、イエスは少し進んで行って、地面にひれ伏し、もしできることなら、この時が自分から過ぎ去るようにと祈り、

14:36 またこう言われた。「アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。」

14:37 それから、イエスは戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「シモン。眠っているのか。一時間でも目を覚ましていることができなかったのか。」

14:38 誘惑に陥らないように、目を覚まして、祈り続けなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」

14:39 イエスは再び離れて行き、前と同じことばで祈られた。

14:40 そして、また戻って来て、ご覧になると、彼らは眠っていた。ひどく眠けがさしていたのである。彼らは、イエスにどう言ってよいか、わからなかった。

14:41 イエスは三度目に来て、彼らに言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。もう



十分です。時が来ました。見なさい。人の子は罪人たちの手に渡されます。

14:42 立ちなさい。さあ、行くのです。見なさい。わたしを裏切る者が近づきました。」

イエス様の十字架の苦しみはここから始まりました。三位にして一体である父なる神から捨てられることは、「悲しみのあまり死ぬほど」の苦痛なのです。しかも3年間ともに歩んできた弟子たちは、イエス様への思いよりも眠気の方が優先で、その後の裏切りと逃げ去りを思わせるような悲しい態度でした。

その中で主イエスは、人間となられたゆえの弱さを抱えながら、すなわち肉体の苦しみと恐怖心と戦いながら、十字架へ向かう祈りをささげたのです。「この杯をわたしから取りのけてください。」と祈ったのは、自分の願いを押し通そうとするのではなく、「みこころのままを、なさってください。」というように、主のみこころへと進む決心を固めるためのものでした。

祈りとはこのように、主のみこころを知って従う決心を与えられるためでもあります。十字架の愛を受け継ぐ私たちも、それぞれの十字架を負うために、そしてその後の勝利と賞賛をいただくためにも、主イエスの祈りを模範としましょう。主は「耐えられないような試練を与えるようなことは」されないからです

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 木曜

マルコ



15:1 夜が明けるとすぐに、祭司長たちをはじめ、長老、律法学者たちと、全議會とは協議をこらしたすえ、イエスを縛って連れ出し、ピラトに引き渡した。

15:2 ピラトはイエスに尋ねた。「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」イエスは答えて言われた。「そのとおりです。」

15:3 そこで、祭司長たちはイエスをきびしく訴えた。

15:4 ピラトはもう一度イエスに尋ねて言った。「何も答えないのですか。見なさい。彼らはあんなにまであなたを訴えているのです。」

15:5 それでも、イエスは何もお答えにならなかった。それにはピラトも驚いた。

15:6 ところでピラトは、その祭りには、人々の願う囚人をひとりだけ赦免するのを例としていた。

15:7 たまたま、バラバという者がいて、暴動のとき人殺しをした暴徒たちといっしょに牢にはいていた。

15:8 それで、群衆は進んで行って、いつものようにしてもらおうことを、ピラトに要求し始めた。

15:9 そこでピラトは、彼らに答えて、「このユダヤ人の王を釈放してくれというのか。」と言った。

15:10 ピラトは、祭司長たちが、ねたみからイエスを引き渡したことに、気づいていたからである。

15:11 しかし、祭司長たちは群衆を扇動して、むしろバラバを釈放してもらいたいと言わせた。

15:12 そこで、ピラトはもう一度答えて、

「ではいったい、あなたがたがユダヤ人の王と呼んでいるあの人を、私にどうせよというのか。」と言った。

15:13 すると彼らはまたも「十字架につけろ。」と叫んだ。

15:14 だが、ピラトは彼らに、「あの人がどんな悪いことをしたというのか。」と言った。しかし、彼らはますます激しく「十字架につけろ。」と叫んだ。

15:15 それで、ピラトは群衆のきげんをとろうと思い、バラバを釈放した。そして、イエスをむち打って後、十字架につけるようにと引き渡した。

マルコ福音書のテーマは、いうなれば「イエスがいかに力ある御父の働き手であるか」というものです。(その最たるものは十字架によるあがないです。) 人間的に見れば、一般的に力ある者は雄弁で、自分の正しさを効果的に主張し、相手の心を動かして、自分の目的を成し遂げるといえるでしょう。しかしイエス様は違いました。「それでも、イエスは何もお答えにならなかった」のです。

イエス様は全てを父なる神にお任せするという、最も効果的で力ある道を知っておられました。そして自分の主張は控えて、父なる神のみこころのみを求めるといふ、最も雄弁な道を知っておられたのです。

私たちは自分の不利な状況で、あせってあれやこれやと言いたくなるものです。または立場が悪くならないようにと、時には相手をやり込めたくなるものです。しかしそれは全く効果的ではなく、雄弁でもなく、非効率であることを知りましよう。

全能の神のみこころに委ねること、これが本当に力ある者なのです。また、時には何も申し開きの機会が与えられないまま、悔しい思いをすることがあるかも知れません。そのときも御父に委ねることのすばらしさを感謝しましょう。イエス様

と同じ道を歩むことができるのです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



27:45 さて、十二時から、全地が暗くなって、三時まで続いた。

27:46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意味である。

27:47 すると、それを聞いて、そこに立っていた人々のうち、ある人たちは、「この人はエリヤを呼んでいる。」と言った。

27:48 また、彼らのひとりはずぐ走って行って、海綿を取り、それに酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。

27:49 ほかの者たちは、「私たちはエリヤが助けに来るかどうかわかることとしよう。」と言った。

27:50 そのとき、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られた。

27:51 すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。

27:52 また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。

27:53 そして、イエスの復活の後に墓から出て来て、聖都には行って多くの人に現われた。

27:54 百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常な恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった。」と言った。

27:55 そこには、遠くからながめている女たちがたくさんいた。イエスに仕えてガリラヤからついて来た女たちであった。



27:56 その中に、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、ゼベダイの子らの母がいた。

「どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」ということばを、神への恨みであるとする異端もありますが、それは馬鹿らしい間違えです。これは詩篇22編であることは明らかで、これはキリストの型であるダビデが苦難のときに神を呼んだ歌であり、イエス様はご自分がそのひな型を成就するのがご自分であるということを受け止めておられたのです。

イエス様が十字架で死なれたときには、いくつかの特別な現象がありました。その中で十字架の意味を表すものが記されています。神殿の幕は神様の聖と人間とを分けるものでしたが、これがなくなりました。十字架の身代わりによって、罪ある人間が主のもとに行けるということです。

聖徒たちが生き返ったというのは、どのような状態であったかわ定かではありませんが、いずれにしても死に定められていた者に命が与えられたという、神の救いを表すものです。

大切なことはこのような現象も、信じない者にとっては何も意味がないようでも、百人隊長のように信じる者にとっては大きな証であるということです。主の出来事は信じる者にとっては宝であり力なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



27:57 夕方になって、アリマタヤの金持ちでヨセフという人が来た。彼もイエスの弟子になっていた。

27:58 この人はピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願った。そこで、ピラトは、渡すように命じた。

27:59 ヨセフはそれを取り降ろして、きれいな亜麻布に包み、

27:60 岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。墓の入口には大きな石をころがしかけて帰った。

27:61 そこにはマグダラのマリヤとほかのマリヤとが墓のほうを向いてすわっていた。

27:62 さて、次の日、すなわち備えの日の翌日、祭司長、パリサイ人たちはピラトのところを集まって、

27:63 こう言った。「閣下。あの、人をだます男がまだ生きていたとき、『自分は三日の後によみがえる。』と言っていたのを思い出しました。

27:64 ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。そうでないと、弟子たちが来て、彼を盗み出して、『死人の中からよみがえった。』と民衆に言うかもしれません。そうなると、この惑わしのほうが、前のばあいより、もっとひどいことになりませう。」

27:65 ピラトは「番兵を出してやるから、行っただけの番をさせるがよい。」と彼らに言った。

27:66 そこで、彼らは行って、石に封印をし、番兵が墓の番をした。

く扱いました。生前の尊敬からして当然でしょう。私たちがクリスチャンの遺体に対して、たましいはここにはないからと、軽く見ることはありません。この世に生きた人格への尊敬と感謝を表わすことは主の御心です。

しかしまた、遺体を神のように扱うことはしません。神は死に打ち勝った方、お一人だからです。もしも遺体が神であったなら、そのような死には希望はありません。

この箇所では大切なことが確認できます。ひとつはイエス様が実際に死なれたということです。遺体として布にぐるぐる巻きにされて、没薬で固められて墓に入れられたのです。完全に死んでいました。

もうひとつは、もしもその後に表れることでもあるなら、ユダヤの支配者にもローマ帝国にも不都合であったということです。弟子たちのような民間人には決して盗まれないように、兵力でこれを阻止しようとした。

イエス様が仮死状態から息を吹き返して、ローマ兵を打ち破ることは不可能です。また弟子たちが遺体を持って行くことも不可能です。しかし、墓が空になっていたのです。

そこには、弟子たちが命をかけて”イエスはよみがえった”と証する事実があったことは間違いありません。そしてその事実は、万物と命を創造した神がなされた事実なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



24:1 週の初めの日の明け方早く、女たちは、準備しておいた香料を持って墓に着いた。
 24:2 見ると、石が墓からわきまにころがしてあった。
 24:3 はいって見ると、主イエスのからだはなかった。
 24:4 そのため女たちが途方にくれていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着たふたりの人が、女たちの近くにきた。
 24:5 恐ろしくなって、地面に顔を伏せていると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。
 24:6 ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。
 24:7 人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらなければならない、と言われたでしょう。」
 24:8 女たちはイエスのみことばを思い出した。
 24:9 そして、墓から戻って、十一弟子とそのほかの人たち全部に、一部始終を報告した。
 24:10 この女たちは、マグダラのマリヤとヨハンナとヤコブの母マリヤとであった。彼女たちといっしょにいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。
 24:11 ところが使徒たちにはこの話はたわごとと思われたので、彼らは女たちを信用しなかった。
 24:12 [しかしペテロは、立ち上がると走って墓へ行き、かがんでのぞき込んだところ、亜麻布だけがあった。それで、この出来事に驚いて家に帰った。]

弟子たちでさえ復活を信じることができませんでした。人は死の前には希望を持つこともできないほど無力なのです。しかし主イエスは人類の初穂としてよみがえりました。

復活は事実であるから力があります。弟子たちの内面の希望という程度であるなら、誰もその希望を持つことができないからです。信じることができなくても、事実を見ることはできます。それは歴史的に記録が残されている事実です。それが復活の信仰なのです。

そしてその事実の上に、私たちの希望は成り立っています。私たちの身代わりに死んでよみがえったということは、私たちが同じようになるということだからです。

永遠のいのちの希望を持ち続けましょう。それが人に伝わるような生き方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

